

講演会：エコロジーの新たな展開 — 一人称エコロジーと自然の詩学

主催：法政大学国際日本学研究所環境・自然研究会

講師：ジャン＝フィリップ・ピエロン氏（リヨン第3大学哲学部教授・学部長）

月日：2016年6月13日

時間：18時30分—21時

場所：法政大学（市ヶ谷）ボワソナードタワー25階B会議室

司会：安孫子信（法政大学国際日本学研究所所員・文学部教授）

通訳：松井久（法政大学非常勤講師）

言語：仏語（通訳がつきます）

要旨：

水の不足や枯渇であれ、砂漠化であれ、温暖化であれ、不可逆で回復不能な水質汚染であれ、環境の諸問題はわれわれに不安感を引き起こす。これは問題の深刻さや緊急性からして当然のことであり、そこから、これらの問題への罪悪感も生じてきて、われわれは、法的な、道徳的な、さらには哲学的な、意識の変革や行動へと導かれていく。こうして社会全体には、環境や自然が求めてくるものに応じて、自分たちの生活を律していこうという責任感が確立されていく。さて、こうして自然との関係を見直し、各人が自らの生活を律していこうとするとき、そこには、環境の倫理学の領域を出て、自然の詩学に基づく、一人称のエコロジーといったものが出現してくるのではないか。

講師の最近の著書：

‘La mort et le soin’(共編著、2016、PUF)—ジャンケレヴィッチをめぐる論集。

‘Parole tenue. Colloque du centenaire Maldiney à Lyon’(共編著、2014、Mimesis)—マルディネをめぐる論集。

‘Où va la famille’(単著書、2014、Les Liens qui Libèrent)—現代の家族をめぐる論考。

‘Les Puissances de l’imagination. Essai sur la fonction éthique de l’imagination’(単著書、2012、Cerf) —想像力の倫理的機能をめぐる論考。

‘Repenser la nature. Dialogue philosophique, Europe, Asie, Amériques’(共編著、2012、P.U Laval) 環境・自然をめぐる論集。